

特集

走り続ける軽便

このまちに二つの軽便鉄道が通っていたことを知っていますか。

大正12年から昭和10年まで、池新田から新野を経由して菊川方面に向かっていた堀之内軌道。昭和23年から昭和39年まで、高松、池新田、佐倉を走っていた静岡鉄道駿遠線がそれです。

時代の流れによりわずか十数年でその役目を終え、人々の記憶の中にしまい込まれた二つの軽便は、時代を越えて、私たちに何かを伝えようとしていました。

堀之内軌道

今から122年前の明治22年、東海道本線の静岡〜浜松間が開業し、堀之内駅(現在の菊川駅)が開設されると駅周辺は大変なにぎわいを見せたといえます。それからほどな

く堀之内〜池新田間に鉄道を敷こうとする計画が地元の有識者たちの間でもちあがりま

しました。馬車鉄道は、

線路上の車両を馬がひくと

いうもの。この地域の主要な

移動手段が、徒歩か自転車し

かなかった時代のことです。

その後、明治43年に南山か

ら御前崎方面へ線路を延ばす

工事が進められ、大正12年、

南山〜池新田間に線路幅76

2ミリの軽便鉄道が開通しまし

た。馬車鉄道だった堀之内〜

南山間の線路幅も改修され、

大正13年、ついに堀之内駅前

〜池新田間が全線開通しまし

た。そのとき使用されたのは

「オット」と呼ばれるドイツ

製の機関車で、当時としては

最新鋭のディーゼル機関車で

した。ディーゼル機関車を営



軽便鉄道の歩み

明治32年
堀之内〜南山間に馬車鉄道
が開業する

明治43年
軽便鉄道法が公布される

大正2年
藤相鉄道 藤枝大手〜藤枝
新間が開業

大正3年
中遠鉄道 袋井〜新横須賀
間が開業

大正7年
藤相鉄道 川崎〜相良間が